

MANIX REPORT

マニックスレポート

「水道インフラをAIで予測」

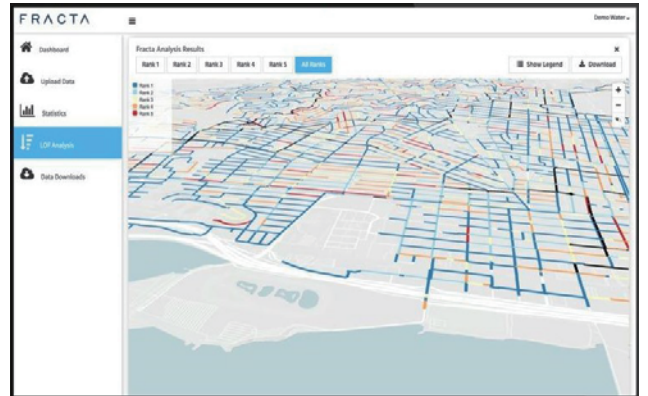
突然ですが、Fracta (フラクタ) という企業をご存知でしょうか?先般もテレビで取り上げられていましたので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。ヒト型ロボットのベンチャー企業をアメリカで立ち上げた日本人起業家が、今度は人工知能(AI)技術を用いて、水道管の老朽化を予測するソフトウェアサービスを提供している企業です。

<日本の水道インフラの救世主になるか?>

Fracta (フラクタ) のソフトウェアは、アメリカでは既に製品化されており、18州で40を超える水道事業者と契約しています。日本でも川崎市や神奈川県などの水道事業者とテストを進めているそうです。これまでの水道管は平均寿命に基づいて交換計画を作っていたそうですが、実際には条件によって平均寿命と大きくギャップが出ているそうです。日本も高度経済成長期に一齐にインフラを整備している為、一律に平均寿命を決めて交換を行っていくには負担が大きくなるはずですので、日本での実用化と活用が進めば画期的なことになるでしょう。

このAI技術がどのように劣化予測をするのかというと、過去の破損データや配管素材、使用年数、土壌、気候、人口動態、鉄道や海岸からの距離など様々な環境データから破損や漏水の確率を導き出します。もともとはロボットで配管を検査するアイデアだったそうですが、ロボットでは限界があると気づき、発想を転換したそうです。モノの見方を変えれば、新たなチャンスが見えてくるということを考えさせられます。何かご商売のヒントになれば幸いです。

(小川 弘晃)



<Fractaソフトウェアのイメージ>

守るべきルール ~3S活動18ヶ条~ の16・17番目

- <16. 情報(PC・USB、ファイル等)の共有化をする(個人情報や私物を無くす)>
- <17. 通路は窓際・壁際にする(窓や壁際の清掃ができるようにする)>

【16番目について】

「パソコンのデータを個人で管理していて、本人に聞かないと場所が分からない!!」
「共有のサーバでデータ管理をしているが、どこにファイルがあるか分かりづらい!!」
「モノが氾濫していて事務所が狭い!!」

といった状態は、有形無形にかかわらず整理ができていない状態です。人の動線だけでなく情報など形のないモノも誰でもすぐに取り出せるような効率的な環境を目指すのが3Sのアプローチです。

【17番目について】

モノ(棚や段ボールの積み上げ、電気コード等)を置いてしまいやすい壁際・窓際を通路にすることにより、埃が溜まってしまいがちな隅まで清掃ができます。特に窓際は採光・通風のためにも通路であると便利です。

<MANIX・3Sチーム>



マニックス イベント告知!!

11月30日(土) 2019秋の展示会
<場所> MANIX太子店
<時間> 12:00~19:00

トピックス

- ☑ 次世代住宅エコポイント
- ☑ 管工機材・設備総合展OSAKA2019
<大阪管工機材商業協同組合>
- ☑ 「クローズアップ建材・洗面用水栓」
多彩な機能で作業が快適に
<リフォーム産業新聞>